資料１　　平成２９年度　　佐賀県立唐津青翔高等学校　　学校評価結果

１　学校教育目標

「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、地域社会に貢献する自立した人材を育成する。」
【参考】校訓：自律・挑戦・感謝
○自律＝基本的生活態度と礼儀・マナーを正し、節度と規律ある行動をとる。
○挑戦＝目標を持って挑戦と努力を継続し、自信を身につける。
○感謝＝相手を尊重し、思いやりの心で行動し、感謝し、感謝される喜びを知る。

自律、挑戦、感謝の精神で身や心を成長させ、大空(社会)に飛翔する。

２　本年度の重点目標

『明るく、いきいき、笑いのある学校づくり』
キーワード　～ あいさつ　楽しい学び　部活動 ～

①自律精神の育成　：挨拶、清掃、部活動(社会性)、基本的生活習慣、ＣＣＣＰ力
②基礎学力の定着　：少人数指導、学び直しの時間、学び方の指導
③進路保障　：３年間を見通し、目的と方向性を踏まえた進路指導、各種講演会、校外見学会、進路学習
④キャリア教育の推進　：１年・・・「産業社会と人間」、２年・・・「インターンシップ」、「修学旅行」　３年・・・「課題研究」
⑤指導力の向上　：青翔式アクティブラーニング、校内公開授業、ＩＣＴの利活用、教育相談（不登校・発達障害対応）の充実
⑥地域連携　（総合学科の系列を生かした連携活動）
小学校サマースクール（書道、環境）、玄海町からの制作依頼（美術系）、
名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加、生活福祉系列の介護実習
（生徒会活動）
玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、
玄海町産業文化祭への出品
（地域への広報）　青翔ニュースの全戸配布
（その他）　　海洋教育に関する校外連携
⑦いじめ問題への取組　：いじめの未然防止と早期対応（個人面談、アンケート、人権講演会等）
※ＣＣＣＰ力＝コミュニケーション力（伝え会う力）、コラボレーション力（協働力）、チャレンジする力、
プレゼンテーション力（提案力）

３　目標・評価

①自律精神の育成　：　挨拶、清掃、部活動(社会性)、基本的生活習慣、ＣＣＣＰ力

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○環境整備	・環境美化に関する生徒の意識は向上したか。	・生活環境における生徒の美化意識を向上させる。 ・校内を快適な学習環境となるよう整備する。	・さわやか清掃活動（校外ボランティア活動）を前・後期各１回実施する。 ・ゴミの適切な処理とトイレの使用について指導を徹底する。 ・美化係を中心とした活動を定期的に行う。	A	・2回のさわやか清掃活動は天候にも恵まれ予定どおり実施できた。 ごみ処理やトイレの使用については以前と比べ改善されてきている。 美化係を中心にトイレットペーパーホルダーの制作を行った。	・さわやか清掃活動の清掃場所について、設定した場所にさほど清掃活動の必要性が感じられなかったため、場所の設定は再考する必要がある。
	●心の教育	・思いやりの心の育成ができたか。	・クラス担任との情報の共有や保護者・ＳＣ・専門機関との連携、協力体制を密にする。 ・ＨＲ活動等をとおして、心の安定を図り、コミュニケーションが上手にとれるようにする。	・生徒理解と情報共有のための職員研修や前・後期各１回の教育相談フォーラムを開く。また、ＳＣの助言を得て関係機関との連携を図る。 ・心の健康のためのＨＲを実施する。 ・コミュニケーション力の向上のための職員研修を行う。	B	・前期、後期の定期考査時に予定していた教育相談フォーラムは予定通り行うことができ、生徒の情報交換ができた。また後期のフォーラムではSCにも入っていただき、専門的な意見も伺うことができた。	・教育相談フォーラムの内容について、他校の資料を参考にしながら、より分かりやすく発展性のあるものに改善していく。SCの利用が本年度少なかったため、もっと活用できるよう促していく。
	○生徒指導	・対話・会話を重視した生徒指導ができたか。	・卒業後を意識した生徒指導という目標を念頭に置き、全職員で連携・協力し、遅刻・欠席、服装・頭髪等の指導を行う。	・職員間で情報の共有を行い、生徒に対して他学年の職員等、多くの職員が係わりいろいろな角度から生徒にアプローチを行う。	B	・学年団との連携を図り、服装・頭髪等の指導を行えた。また、指導を受ける生徒も減少した。 ・遅刻の多い生徒には、個別に指導を行い、遅刻を減らすことが出来た。	・職員間での情報共有と、全職員での連携した生徒指導のシステムを向上させていく必要がある。 ・問題発生時には、スムーズな対応ができるよう引き続き指導体制の強化を図りたい。
	○読書指導	・本に親しむ生徒を育成できたか。	・学校図書館の貸出冊数を、１人平均５．５冊以上にする。	・図書委員が中心となり、配布物、掲示板、放送などを使った広報活動を行う。 ・生徒登校時の閉館日を年間５日以内にする。	A	・図書委員による本紹介を掲載した配布物やポップ作成・掲示などを行い、生徒の図書館利用を促した。 ・生徒登校時の閉館日は年間2日であった。平均貸出冊数は、5.9冊となった。	・図書館を利用して、本を多く読む生徒が偏っている。多くの生徒が気軽に足を運ぶような更なる工夫が必要である。 ・図書委員による自発的な活動を増やしていきたい。
	○基本的生活習慣の確立	・挨拶が活発に行われるようになったか。	・朝の挨拶運動を毎日継続して行う。 ・自ら挨拶ができる生徒を増やし、コミュニケーション力を身につけさせる。	・生徒会が中心となり、部活動の生徒、HR委員へ協力を依頼し、朝の挨拶運動を行う。 ・部活動の生徒を中心にしっかりとした挨拶ができるように意識させ、習慣にさせる。	B	・朝の挨拶運動は生徒会が中心となり、しっかり行うことができた。自ら積極的に挨拶運動に参加してくれる生徒もいた。 ・自ら挨拶をしてくれる生徒も増えたがまだまだ挨拶を返せない生徒もいるのが現状である。	・さらに生徒会、部活動生が中心となり、挨拶が飛び交う雰囲気を作りをし、挨拶の意識を高めさせていく。 ・挨拶の大切さをもっと感じさせ、挨拶を通してコミュニケーション力に繋げられるような工夫が必要である。
	●健康・体つくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。	・朝食をとっている生徒の割合を７０％以上にする。	・保健だよりや青翔ニュースなどをとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。	A	・保健だよりや食育だよりなどをとおし、食育に対する意識の向上を図ってきたが、朝食をとっている生徒の割合は各学年80%前後となっていて、目標としていた70%は超えることができた。	・自己管理能力の育成と健康管理のため、保健だよりなどをとおし生徒の健康への意識の向上に努めていく必要がある。

②基礎学力の定着　：　少人数指導、学び直しの時間、学び方の指導

領域	評価項目	評価の観点（具体的な評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由		成果と課題
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力は定着したか。 （青翔タイム、週末課題、少人数指導、成績不振者に対する長期休業中の指導）	・青翔タイムの活用により基礎学力の向上を図る。 ・考査や模試の結果を生徒に配布し、事後指導に役立てる。 ・落ち着いた学習環境を作るため、遅刻・欠席を昨年度の３０％減にする。	・青翔タイムに全職員で取り組み、個々に応じた追指導を行う。 ・考査や模試の結果を迅速に処理し、個人成績票の配布を行う。 ・遅刻者数を減らすために、生徒指導部と連携し、生徒面談、保護者面談等を行う.	A	・青翔タイムの中で行う学び直しによって基礎学力は向上していると思われる。 ・各種試験の結果を配布することで、生徒の試験に対する意識の向上に繋がっている。 ・遅刻・欠席は年々減少しており、今年度は昨年の約6割となった。	・青翔タイムでのICTの利活用について、生徒個々に応じた課題や評価ができるように活用方法を検討する必要がある。 ・遅刻指導に関して、学年団や生徒指導との連携で確実に数を減らすことができている。
	○少人数学級編制	・一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができたか。	・新しい学校生活に慣れ、目標を持った高校生活が送れるようにする。 ・学習指導においては、理解度に応じた指導を効率よく進め、クラス経営においては、教育相談や進路相談の充実を図る。	・ホームルーム、面談などあらゆる場面で一人一人の様子を観察し、声を掛ける。 ・クラスを少人数に分けることや、ＴＴの活用の機会を拡大させる。 ・産社の授業、キャリア教育を通して卒業後の目標を明確にする。	A	・1年次で行っている少人数学級編成によって、入学後からきめ細やかな指導が可能となり、学校全体が落ち着いた状態を保つことができた。 ・少人数による指導により、個に応じた生徒指導や教育相談を行うことができた。	・学級担任・教科担任を中心に、生徒の様子を観察し、個に応じた決め細かな指導ができているため、問題を未然に防ぐことができている。今後も連絡を密にして取りんでいきたい。 ・多くの授業で、少人数やTTでの指導を行っているが、教員の授業時間の増加や負担にできるだけならないように工夫が必要である。
学校経営	○学校経営方針	・重点目標は達成できたか。	・重点目標の１つ以上の項目に満足のいく結果が得られる職員の割合を９０％以上にする。	・各行事前や考査前に呼びかけを行い、目標達成の意識を喚起する。	A	・重点目標各項目で高い評価がされており、十分に達成できたといえる。	・生徒に落ち着いて学校生活ができる環境を継続的に提供できることが生徒の進路保障につながると思われる。

③進路保障　：　３年間を見通し、目的と方向性を踏まえた進路指導、各種講演会、校外見学会、進路学習

領域	評価項目		具体的目標	具体的方策	評価及びその理由		成果と課題
教育活動	○進路指導	・進路希望を達成させることができたか。	・生徒が希望する進路を実現するため、また、早期退学や離職を予防するために、キャリア教育等を通して、勤労観・職業観の育成を目指す。 ・進学および就職達成率１００％を目指す。	・生徒の進路希望や進路に関する適性について、早い段階から職員間での情報共有を行う。 ・各種学校や企業等の関係強化のために、学校や企業訪問を実施する。	B	・産業社会と人間の時間や総合学習の時間、ホームルーム活動をとおして将来の職業目標を考えさせ、生徒が自らの進路を探す機会となった。 ・進路保障については、１００％達成できなかったが、未決定の生徒については就職試験の結果待ちの状況である。	・生徒の希望に沿う企業の開拓を行うことが、今後の課題である。唐津周辺にある専門高校と同じくらいの就職者数を出しており、早期離職などの問題も含め生徒一人一人の将来を見据えた就職指導を行う必要がある。また、早期退職者、退学者が出た際には、企業や上級学校の対応については慎重に行う必要がある。

④キャリア教育の推進　：　カリキュラムの中に『総合学科の理念』を実現

領域	評価項目	評価の観点 （具体的な評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由		成果と課題
教育活動	○キャリア教育	・キャリア教育が充実したか。	・一人一人の社会的・職業的自立に向け、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「ｷｬﾘｱﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ能力」「専門的知識・技術・技能」に関する能力の育成を目指す。	・「キャリア教育支援事業」や地域の力を活用し、総合学科に特化した内容を設定。外部講師による講演会や郷土学習の教材利用、各系列による校外実習等の体験活動を充実させることでキャリアアップを図る。	B	・年間の実施目標を最低限クリアしているが、更なるキャリア教育の充実のためには職員がしっかりと理解する必要がある。またキャリア教育は「就職や進学のために行うことである」、という理解を変える必要がある。	・本校が進んでいく道を明確にし、それに対応すべきカリキュラムやキャリア教育の更なる充実を図るため、内容を検討する必要が急務である。さらには本校が総合学科であるという意識の元に、今何をすべきか、柔軟性を持った考えで取り組まなければならない。

⑤指導力の向上　　：　青翔式アクティブラーニング、校内公開授業、ＩＣＴの利活用、教育相談（不登校・発達障害対応）の充実

領域	評価項目	評価の観点 （具体的な評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由		成果と課題
学校運営	○職員の資質向上	・教科指導力が向上したか。 （校内公開授業、校内外の研修）	・学習用ＰＣ、電子黒板を含めたＩＣＴ利活用能力をより高める。 ・いつでも、どこでも、誰でも授業をお互いに見せ合う環境を職員間でつくる。 ・校内外での各種の研修会を年３回以上受講する教員の割合を９０％以上にする。 ・生徒が参加しやすい、わかりやすい授業を目指す。	・ＩＣＴ教育を絡めた公開授業を年２回計画しており、他にも校内研修を設定しながら教員相互が授業を見せ合いやすい環境をつくる。 ・校外研修の内容が職員に伝わるよう校内研修を充実させる。 ・青翔式アクティブラーニングの取り組みを具体化する。	B	・ICT利活用を含む公開授業は計画通り2回行い、ほぼ全職員がICT機器を活用した授業を行った。 ・佐賀県教育センターの講座受講者の人数が増え、職員の中に積極的に研修に参加しようとする姿勢が高まってきた。	・次年度についても今年度と同様に全職員に積極的に取り組んでもらい、指導力向上につなげていきたい。 ・本校の生徒にとってわかりやすく楽しい授業を目指す「青翔式アクティブラーニング」については、今後さらなる研究を続けていくことが必要であると思われる。
	○業務の改革	・校務の効率化に努めたか。	・定例の業務の引き継ぎを効率的に行う。 ・校務の整理や役割分担の明確化、行事の精選等に取り組む。	・前年踏襲だけではなく、現在の学校の現状にマッチした取り組みを考えながら、校務全体を見直す。	A	・単位制、二学期制を生かしながら、総合学科の系列の見直しや行事の精選を実施することができた。	・今年度の決定事項を学校運営の実践の場において修正しながら、よりよい方向に進めていく必要がある。
	●教育の質の向上に向けたＩＣＴ利活用教育の実施	・教職員のICT利活用能力は向上したか。 （電子黒板、学習者用ＰＣ）	・電子黒板、学習用PCを利用した授業を実施できる教員を100%にする。 ・学習用パソコンを利用した効果的な授業を展開していく。	・校内の研修を充実させていく。 ・朝自習での利用などを通して、学習用パソコンを利用する機会を増やしていく。	B	・電子黒板を利用した授業は、実施率が上昇しているが、学習用PCの利用率は不十分である。	・校内研修を充実させていく。 ・職員への個別対応の研修を増やす。

⑥地域連携
（総合学科の系列を生かした連携活動）
小学校サマースクール（書道、環境）、玄海町からの制作依頼（美術系）、名護屋城博物館での「日韓交流史」
韓国語スピーチコンテストへの参加、生活福祉系列の介護実習
（生徒会活動）
玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品
（地域への広報）　青翔ニュースの全戸配布
（その他）
海洋教育に関する校外連携

領域	評価項目	評価の観点 （具体的な評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由		成果と課題
教育活動	○系列	・科目群の授業において地域と連携した授業、活動が行なえたか。 （重点目標参照）	・各系列の特色を活かし、校外実習や他校との連携などを行う。 ・系列の特徴を活かした地域連携の活動の機会を増やす。	・地域連携の場の設定や生徒への案内を行っていく。 ・「産業社会と人間」や「課題研究」、各系列の授業において地域や企業等との連携を行う。	B	・小学校との交流や福祉事業所での校外実習など各系列の特色が活かされた活動を行うことができた。 ・地元企業への持ちこみ事業などの地域連携の活動を行うことができた。	・総合学科発表会を軸に地域の学校や教育機関へ本校の特色ある取り組みをさらに発信していきたい。 ・各系列の特色を活かした校外実習や他校との連携などを継続して行っていく。
	○生徒会活動	・地域行事への参加と協力が行えたか。	・玄海町民会議での意見発表、福祉施設でのボランティア活動、玄海町産業文化祭などへの参加を通じて地域住民との関わりを深める。	・本校生徒の参加だけでなく、積極的に職員も参加することで、地域との連携を図り、繋がりを強化する。	B	・それぞれの行事への参加を通じて多くの経験をさせてもらい、生徒は多くのことを感じ、地域住民との関わりを深めることができた。	・多くの場面で地域住民の方と関わりをもつ機会があるのでさらに地域の方との連携を図り、繋がりを強化しながらさらに生徒の成長にも繋げていきたい。
学校運営	○開かれた学校つくり	・広報活動を充実させることができたか。 （公開授業、情報発信）	・学校ＨＰ、掲示板の定期的な更新を行う。 ・青翔ニュース等を通して家庭、地域へ学校の情報を発信する。 ・公開授業への参加者数を昨年度よりも増やす。	・本校の特色を効果的に伝えるために、発信する内容、時期を工夫する。 ・青翔ニュースを家庭や地域にも配布する。 ・各種行事への参加者数を増やすために、事前の情報発信を行う。	A	・HPの更新は、定期的に行うことができた。 ・青翔ニュースは今年度も家庭、地域に毎月配布し、学校の情報発信の中心的なものとなった。 ・公開授業への保護者の参加数は昨年よりも増加した。	・今後も学校HPの更新を定期的に行うともに、内容の充実を図っていきたい。 ・はなまる連絡帳によるメール配信により、学校の情報発信を今後も行っていきたい。 ・公開授業への参加数は昨年度よりも増加したが、さらに参加者が増えるように、時期や内容の検討を行っていきたい。

⑦いじめ問題への取組　：　いじめの未然防止と早期対応（個人面談、アンケート、人権講演会等）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的な評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由		成果と課題
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。	・いじめ・体罰等対策委員会において、いじめ防止対策等を検討する。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりと整備を行う。	・学校生活アンケートを定期的に実施しいじめの早期発見につなげる。 ・問題行動発生時には、実態調査や学年集会・全校集会を実施する等の対策を迅速に行う。	B	・いじめ防止対策委員会において、いじめ防止対策等を検討し、実施することが出来た。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりが出来た。	・年に4回、学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めることが出来た。 ・大きないじめ問題は発生しなかったが、引き続き、いじめの早期発見に努めるとともに、人権尊重教育などを実施していく必要がある。

○本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的な評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由		成果と課題
学校運営	○学校事務	・施設設備の維持管理に努めることができたか。	・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう危険箇所などの早期発見、早期対応に努める。	・日頃から定期的に校内外を巡回する。 ・安全点検表を利用し、各担当部署とも連携をとりながら迅速な対応に努めたい。	A	・安全点検表で不具合のあった分については迅速に現地確認を行い改善策を検討し対応した。 ・施設をより使いやすいように改修の提案を行い、実行した。	・日常点検や担当部署との聞き取りをもとに、限られた予算の範囲内で施設の改修を心がけ安全安心な学校づくりに努力した。 ・塩害による施設の老朽化は避けられないため改修予算の要求を積極的に行いたい。

4　本年度のまとめ・次年度の取組

①自律精神の育成：「生徒指導」、「基本的生活習慣の確立」では達成度はBとなってはいるものの、遅刻・欠席や問題行動は、昨年度に続いてさらに減少し、落ち着いた雰囲気で学校生活を送ることができた。生徒の自己表現能力も高まってきており、青風祭や総合学科発表会では堂々とした発表を披露してくれた。
②基礎学力の定着：朝の青翔タイムでは「Classi」や「自習アプリ」を活用しながら継続して行った、生徒達は自主的に取り組んでいた。国語・英語・数学での少人数指導やチームティーチングを学力向上につなげていきたい。
また、本校生徒にとって適切な授業展開が行われるよう、さらなる授業研究が必要である。
③進路保障：全職員が協力をしながら就職・進学試験に向けての指導をする体制はできている。さらに、保護者の協力も得ながら面接指導等を行った。ほとんどの生徒の進路が確定したが、未決定の生徒について最後まで粘り強く指導していきたい。
④キャリア教育の推進：キャリア教育は学年ごとに充実をしてきているが、総合学科における「産業社会と人間」のあり方について、なかなか苦戦しているという現状があった。今後もさらなる研究をしていきたい。
⑤指導力の向上：教育相談に関する研修に参加する職員が多く出ており、現場での切実さがよく伝わってきた。すぐに解決できることばかりではないが、本人・保護者と地道に対話をしながら取り組んでいきたい。授業改革という視点で「青翔式アクティブラーニング」をもっと研究し、浸透させていきたい。
⑥地域連携：昨年度に引き続き、玄海みらい学園とは地震・津波退避訓練を実施した。また、名護屋城博物館での「日韓交流史」の授業、韓国語スピーチコンテストへの参加、生活福祉系列の介護実習、インターンシップ等々、玄海町のみならず、地域との多くのつながりの中で生徒は成長していると感じられる。来年度は新たに玄海みらい学園を幹事校として、「海洋教育バイオニアスクールプログラム」に参加することが決定し、幼保・小・中・高という全国でも珍しい連携体制が確立した。さらに、玄海町を通じて姉妹校となっている「釜山外国語大学校」との交流も活発化していきたい。
⑦いじめ問題への取組：今年度のいじめの認知件数は4件であった。今年度は年間4回のアンケートを行い、速やかに適切な対応をすることができた。今後も早期発見を目指して取り組んでいきたい。